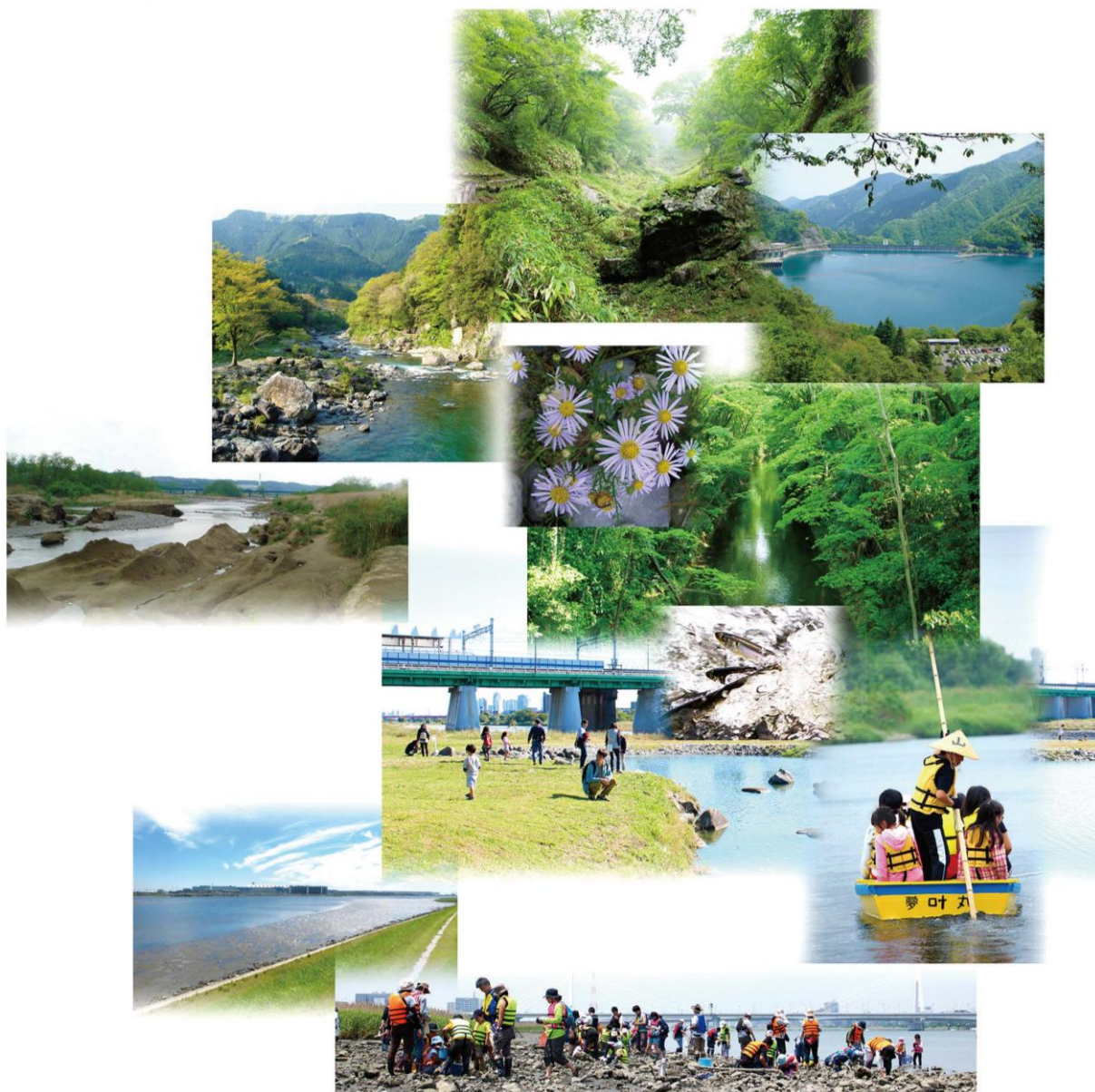


第 13 回多摩川流域歴史セミナー 開催報告  
「古墳からみた多摩川流域の地域史」



## 第13回多摩川流域歴史セミナー 開催報告（詳細版）

### 目次

	開催概要 .....	1
	午前の部：現地散策 .....	1
	2.1 鶉の木松山公園横穴墓 .....	2
1.	2.2 亀甲山古墳 .....	2
2.	2.3 多摩川台古墳群 .....	3
	2.4 多摩川台古墳展示室 .....	4
	午後の部：多摩川流域歴史セミナー .....	5
	3.1 開会挨拶 .....	5
3.	3.2 基調講演『古墳からみた多摩川流域の地域史』 .....	5
	3.2.1 はじめに .....	5
	3.2.2 武蔵野台地の古墳 .....	6
	3.2.3 横穴墓について .....	7
	3.3 質疑応答・意見交換 .....	9
	3.3.1 概要 .....	9
	3.3.2 意見交換 .....	9
	3.4 閉会挨拶 .....	11

# 第 13 回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

2025 年 6 月 1 日 (日) 10:00~16:00

場所：午前：部の：鵜の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後：部の：奥沢区民センター別館・WEB 配信

参加者：午前：17 名、午後：83 名 (会場 13 名、WEB70 名)

主催：多摩川流域懇談会

## 開催概要

テーマ：古墳からみた多摩川流域の地域史

日 程：2025 年 6 月 1 日 (日) 10:00~16:00

午前の部：10:00~11:30

1. 午後の部：13:00~16:00

形 式：午前の部：現地散策 (多摩川台古墳群、鵜の木松山公園横穴墓)

午後の部：第 13 回多摩川流域歴史セミナー

(奥沢区民センター別館/オンライン開催 (ZOOM))

主 催：多摩川流域懇談会

登壇者：松崎 元樹氏 (公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センター調査研究員、桜美林大学非常勤講師)

参加者：午前の部：17 名、午後の部：83 名 (会場参加 13 名、Web 参加 70 名)

## 午前の部：現地散策

2. 多摩川流域懇談会運営委員会の神谷氏より開会の挨拶があり、現地散策がスタートしました。古墳と横穴墓の築造の材料やその位置関係から、多摩川周辺の歴史的背景を考えました。



背景地図： <https://www.openstreetmap.org/copyright/ja>

# 第 13 回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

2025 年 6 月 1 日 (日) 10:00~16:00

場所：午前の部：鶉の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後の部：奥沢区民センター別館・WEB 配信  
参加者：午前：17 名、午後：83 名 (会場 13 名、WEB70 名) 主催：多摩川流域懇談会

## 2.1 鶉の木松山公園横穴墓

<主な内容>

- ・平成 18 年 (2006 年) 8 月、鶉の木一丁目 6 番「(仮称) 鶉の木一丁目緑地」で、奈良時代の遺跡が発見されました。これは、鶉の木一帯を治めた約 1300 年前、7 世紀ごろの地域の有力者のお墓と思われます。
- ・現在に至るまで横穴墓が残されているのは珍しいことです。特に鶉の木の横穴墓は住宅地に残っているため大変珍しく、ここまで残してきた地域の価値が見いだせます。
- ・当時、庶民は基本的に埋葬されることはありませんでした。埋葬される地位の人々の中では、墳丘と横穴墓に埋葬される人には身分の階層に違いがあるとされておりまして。しかし、近年横穴墓において地域の開発や農業に携わった有力者が埋葬されていたことがわかりました。
- ・横穴墓の基盤は、土の中でも持ちの良い関東ローム層でできています。墓道や入口の門に使われている石は、凝灰岩や泥岩で多摩川の崖下から切り出して持ってきて、鉄製道具で加工したと思われます。床面に使われている石は多摩川の河原の石です。



鶉の木松山公園横穴墓

鶉の木松山公園横穴墓



説明看板

## 2.2 亀甲山古墳

<主な内容>

- ・亀甲山古墳は、多摩川下流域左岸の武蔵野台地上に築造された東京都を代表する前方後円墳の一つです。亀甲山古墳は築造当時の墳丘長が 107.25m で比較的大きく、代表的な有力者の古墳であると思われています。
- ・発掘調査がされていませんが、墳丘の平面形が京都府の杜古墳と奈良県佐紀陵山古墳と類似することから、4 世紀に築造された古墳だと考えられています。これは、前方後円墳が展開されている地域は、当時のヤマト王権が古墳の形状をまねることを許可した地方であるためではないかと考えられております。東京周辺の前方向後円墳では 100m 以上の長さのものがあまりないことから、一定規模以上の前方向後円墳を造ることに規制があったのだと思います。
- ・古墳が造られた当時、現在と多摩川の流路は違ったのかもしれませんが、崖線は同じだと思います。亀甲山古墳は多摩川の崖上台地にあります。古墳築造時に崖の縁を削り、より台

# 第13回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

2025年6月1日(日) 10:00~16:00

場所：午前の部：鶴の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後の部：奥沢区民センター別館・WEB配信  
参加者：午前：17名、午後：83名(会場13名、WEB70名) 主催：多摩川流域懇談会

地を高く見せたと思われています。おそらく当時の有力者にとって、台地の縁に大きな古墳を造ることは、良い立地である多摩川を支配しているという意味をもたせたかったのではないのでしょうか。



亀甲山古墳

## 2.3 多摩川台古墳群

<主な内容>

- ・ 多摩川台古墳群は、多摩川下流域左岸の武蔵野台地上に位置し、南側の国指定史跡亀甲山古墳と北側の都指定遺跡宝来山古墳の二つの大型前方後円墳の間に築造された8基から成る古墳時代後期(6~7世紀ごろ)の古墳群です。
- ・ これらの古墳から、埴輪や馬具など副葬品が出ています。埴輪は、埼玉の生田塚周辺で焼かれたものであることが分かり、荒川を下って東京湾に出てから多摩川へ上がってきたことが考えられます。
- ・ 多摩川台古墳群の中には、宅地化の影響で取り壊されたものもあることがわかっています。



多摩川台古墳群



多摩川台公園

# 第13回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

2025年6月1日(日) 10:00~16:00

場所：午前の部：鶴の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後の部：奥沢区民センター別館・WEB配信

参加者：午前：17名、午後：83名(会場13名、WEB70名) 主催：多摩川流域懇談会

## 2.4 多摩川台古墳展示室

<主な内容>

- ・多摩川台公園内にある古墳に関する展示室です。
- ・室内には、4世紀から7世紀にかけて造られた古墳という巨大なお墓を再現した展示がされており、6世紀後半に作られた横穴式石室をもつ前方後円墳の後円部の一部を切り取った状態がイメージされています。

大田区から世田谷区にまたがる荏原台古墳群内のうち、太田区域の田園調布古墳群で出土した大刀や勾玉、埴輪などのレプリカが展示されています。



多摩川台古墳展示室 説明の様子



多摩川台古墳展示室

## 第 13 回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

2025 年 6 月 1 日 (日) 10:00~16:00

場所：午前の部：鶴の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後の部：奥沢区民センター別館・WEB 配信

参加者：午前：17 名、午後：83 名 (会場 13 名、WEB70 名)

主催：多摩川流域懇談会

### 午後の部：多摩川流域歴史セミナー

#### 3.1 開会挨拶

多摩川流域懇談会運営委員長の神谷氏より、開会の挨拶およびセミナー主催の「多摩川流域懇談会」についての説明があり、第 13 回多摩川流域セミナー午後の部が開会されました。

3.

<主な内容>

- ・多摩川流域懇談会は、ゆるやかな合意形成の場として全国に先駆けて“パートナーシップで一緒に川の問題を考える場”を設け、行政、市民、学識、企業を含めて話し合いをおこなってきました。
- ・一時の多摩川は汚れており、川の公害でも代表的な川として有名でしたが、現在ではきれいになっています。 神谷氏
- ・その過程で河川法の改正がありましたが、全国に先駆けて多摩川の流域懇談会が設立され、そこで活発な議論をして、新河川法の下に環境に対する取り組みも行ってきました。



#### 3.2 基調講演『古墳からみた多摩川流域の地域史』

公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センター調査研究員、桜美林大学非常勤講師の松崎元樹氏より、古墳を中心に、多摩川流域に展開する横穴墓の様相を時期ごとに俯瞰すること、多摩川流域の地域史を紐解きました。 松崎氏



##### 3.2.1 はじめに

- ・古墳時代はおよそ 3 世紀~7 世紀の初めぐらいまでで、土を盛った大きな墳丘は畿内（大阪、京都、奈良）に集中している。それ以外の小さい古墳も含めると、北海道から東北の北部あるいは南西諸島、琉球を除く日本列島全域に築造されている。文化庁の統計によれば、古墳は約 16 万基あると言われているが、恐らくこれの数倍の古墳が築造されていたのではないかと考えられている。
- ・東京には、約 800 基の古墳があると言われているが、古墳時代の前期から中期に至る古墳は非常に少なく、限られた数の古墳しか見つかっていない。それに対して、古墳時代の後期である約 6 世紀以降は、約 700 基以上あるだろうと考えられており、後期に集中していることが伺える。さらに、そのうちの 70 % ぐらいを、横穴墓が占めている。
- ・東京の古墳は、多摩川流域に面している武蔵野台地、それから多摩丘陵、最近では東京低地にもそれなりの古墳があったと考えられている。つまり、明治以前の江戸時代ぐらいには大半の古墳が削られ、失われてしまったのではないかと考えられる。

## 第13回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

2025年6月1日(日) 10:00~16:00

場所：午前の部：鶴の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後の部：奥沢区民センター別館・WEB配信

参加者：午前：17名、午後：83名(会場13名、WEB70名)

主催：多摩川流域懇談会

### 3.2.2 武蔵野台地の古墳

- ・ 午前に現地を散策した多摩川台の地域一帯は、荏原台という台地を形成している。これは武蔵野台地の派生的な台地だが、この縁辺部に並ぶような形で古墳が築かれている。一方、亀甲山古墳や浅間神社古墳などは、台地の突端の部分に古墳が築かれている。

#### (1) 宝萊山古墳

- ・ 今日には行かなかったが、多摩川の下流域で最も古い前方後円墳が宝萊山古墳である。全長が97mで、3mぐらいの高さであり、後円部と前方部の高さの差が結構ある。また、後円部自体は半分以上削られてしまっているの細長い形状に見える。
- ・ この場所は、現在住宅地になっており、住宅地の中に円形の道路がある。これが本来、古墳のあった場所であり、その形を残しているのではないかと思われる。
- ・ 発掘調査もされているが、かつての後円部から主体部が発見されており、そこから半肉彫の獣形鏡や、勾玉・管玉、装身具類などの副葬品が出ている。

#### (2) 亀塚古墳

- ・ 中期の終わり頃(5世紀の終わり頃)に近づくと、上流の狛江市に亀塚古墳が出現する。亀塚古墳も帆立貝形の古墳で、規模も41mと小さくなっている。
- ・ ここからも複数の埋葬施設が見つかっており、特に馬具類が多く発見された。
- ・ 特に、馬に足をかけるところのあぶみが出現しており、これは畿内の文化を取り入れた古墳であったと思われる。また、金銅製飾金具の鏡や冠帽も出現しており、これは、朝鮮半島などの影響を受けたものではないかと考えられる。もしかすると、渡来系の集団の首長がここに葬られている可能性もある。

#### (3) 浅間神社古墳

- ・ 後期の最初(4世紀の後半頃)に築かれたのが大田区の浅間神社古墳である。この場所は、田園調布の多摩川駅のすぐ真上にあり、丸子橋の付近である。
- ・ 浅間神社古墳は、社殿が古墳の真上に建設されており、社殿から東横線の線路に向かって古墳の前方部が延びている。全長が約60mの前方後円墳だろうと言われており、人物埴輪や馬形の埴輪が出ている。6世紀にできたものだろうと言われており、田園調布の後期の前方後円墳の中では、最も大きいものになると思われる。
- ・ 埴輪は、北武蔵の地域、埼玉の生出塚古墳から供給された埴輪だと考えられているので、この段階から北武蔵、埼玉の勢力との関係性がより強まったのではないかと考えられる。

# 第13回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

2025年6月1日(日) 10:00~16:00

場所：午前の部：鶴の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後の部：奥沢区民センター別館・WEB配信

参加者：午前：17名、午後：83名(会場13名、WEB70名)

主催：多摩川流域懇談会



出土した頭巾をかぶる人物埴輪



生出塚窯産埴輪の分布

## 3.2.3 横穴墓について

### (1) 石室の形態

- ・ 6世紀の後半から、多摩川流域に展開している石室の形態をまとめてみると、石室の長さ別に5段階に分かれる。石室の形や大きさによって差があり、この地域の古墳を造った人たちは階層化されていたのではないかと伺える。その中では、胴張り形の複室構造を持った石室が一番トップに位置しており、その地域の首長墓といってもよいのではないかと考えられる。

### (2) 地域の首長の石室形態

- ・ 多摩川の下流域と鶴見川流域の石室形態は胴張り形で、丸い形を持たずに四角い形が主体になっている。また、多摩川の中上流域あるいは下流域の右岸である川崎側を見ると、同様に胴張りを持った石室が6世紀の後半から造られており、多摩川流域には胴張り形の石室構造が共通して見られることがある。

### (3) 多摩川流域の横穴墓について

- ・ 後期以降(6世紀の終わり頃)、横穴墓が出現するが、これはおよそ5世紀の後半に九州の北部で誕生した墓制と言われている。横穴墓は単体で存在しているものもあるが、ほとんどが群集し、数十基から数百基単位で1か所に造られている。
- ・ 構造は、基本的に崖の面に墓室を掘り込んで、その中に埋葬する。多摩川流域の横穴墓は、河原石を敷き込んで幾つかに部屋を分割していることが多い。入口の羨道部とその奥の玄室部に分かれている。

# 第13回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

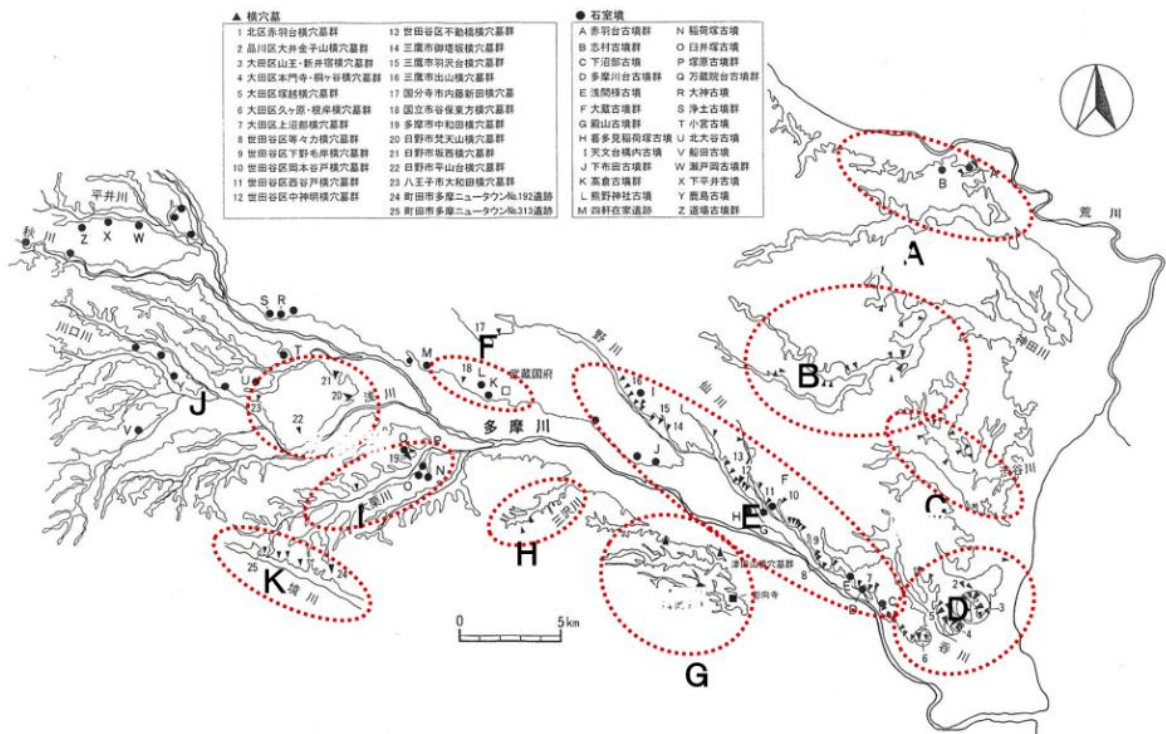
2025年6月1日(日) 10:00~16:00

場所：午前の部：鶴の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後の部：奥沢区民センター別館・WEB配信

参加者：午前：17名、午後：83名(会場13名、WEB70名)

主催：多摩川流域懇談会

- ・ 多摩川流域には横穴墓が多い。おそらく1,000基をはるかに超える数がこの流域には造られているのではないと思われる。
- ・ 多摩川の中流域に見られるような横穴墓の特徴は、ローム層を掘り込んでアーチ型に造られており、荏原郡と呼ばれる多摩川の下流域では半円形に近いような奥壁の形が多い。そのため、多摩地域、多磨郡の上中流域の横穴墓と下流域の横穴墓では形状が異なる。
- ・ 二子玉川の周辺、旧武蔵国でいうと瀬田郷と瀬田を中心とする地域は切石と玉石を両方使っている。つまり、下流域は切石文化圏で、上流域は河原石の文化圏、その中間が切り石も川原石も両方使っているということになる。
- ・ 大田区や八王子市の横穴墓では、太刀が出土しており、多摩川流域を中心として、畿内や西日本の豪族と関係があった者たちがいたのではないかと考えられる。それは、直接地域の開発に関わるような集団だったと思われる。



多摩川流域における横穴墓の分布

## 第13回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

2025年6月1日(日) 10:00~16:00

場所：午前の部：鶴の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後の部：奥沢区民センター別館・WEB配信

参加者：午前：17名、午後：83名(会場13名、WEB70名)

主催：多摩川流域懇談会

### 3.3 質疑応答・意見交換

#### 3.3.1 概要

- ・セミナーの後半では、それぞれの講演内容に関する意見交換や、参加者からの質問への回答が行われました。



#### 3.3.2 意見交換

- (1) **横穴墓は崖や丘陵に造ると聞いたが、そのような適当な場所がない場合に平地での豪族たちはどういう墓を造ったのか。** 意見交換の様子

○松崎氏

- ・ 例えば、あきる野市のようにあまり横穴墓が掘れるような地盤ではない場所では、小型の石室が主体になっていきます。
- ・ あるいは地下式系の土坑墓があり、上から穴を掘って片側にだけえぐりを入れてそこに埋葬するものもあるのです。
- ・ 平地部における豪族たちの墳墓の形態というのは、もちろん石室も造るし、その他の横穴墓以外の変わった墓制も取り入れているということが言えます。

- (2) **亀甲山古墳や蓬萊山古墳を作った人々の支配領域の大きさはどの程度だったのでしょうか。その後、代々続いたのか、支配勢力の交替も考えられるのだろうか。**

○松崎氏

- ・ 人によっては多摩川の対岸に領域、母体があったと考える方たちもいます。
- ・ また、多摩川の左岸には南東方向に桑原遺跡があり、村があった。村の人たちの認識として、お墓は川のそばに造るということで考えがあったのだと思います。
- ・ 在地の人たちというよりは、外から入ってくる人たち、あるいは川を通る人たちに對して自分たちの首長の権威を示すという意味が強かったためだと思われます。

- (3) **多摩川流域の墓は、沖縄の亀甲墓や朝鮮半島との関係があるのか。**

○松崎氏

- ・ あまりそこら辺に関しては詳しくありませんが、古墳時代に関しては、中国の楽浪郡というのが朝鮮半島の北部、その辺から徐々に朝鮮半島を経て日本に入ってくるルートが確立していったと思います。
- ・ 横穴式石室自体は百済とかの影響を受けているものが多いのではないかなと思います。新羅というのは積石木槨墓という形の墳墓が多いのです。
- ・ 多摩川流域の喜多見で5世紀の住居跡から馬具が出ているのですが、それは5世紀の半ばぐらいのもので、まさに百済製の馬具とよく似ているのです。なので、そういう意味では多摩川流域もその地域で完結しているわけではなくて、朝鮮半島との関

## 第13回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

2025年6月1日(日) 10:00~16:00

場所：午前の部：鶴の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後の部：奥沢区民センター別館・WEB配信

参加者：午前：17名、午後：83名(会場13名、WEB70名)

主催：多摩川流域懇談会

係性が入ってきているというのは非常に興味深いですね。だから、多摩川というのは我々が想像しているよりもはるかに外に開けている地域であると感じています。

- (4) **横穴墓の場合は斜面に木草が生えている中で穴を掘ってあったのか、それとも世田谷の殿山横穴のように、山肌が露わになっている状態で穴を掘ったのか。テリトリーを示すにも何らかの可視化された装飾的なものがなければならぬので、その辺り、古墳と差別化された横穴の当初のイメージはどのように考えるか。**

○松崎氏

- ・ 横穴墓というのは斜面に掘ります。おそらく横穴墓を掘削するときには、やはり一定の領域というか、墓域、お墓を造る範囲はほとんど丸裸にしたのだと思います。
- ・ 例えば隣の墓とあまり近づき過ぎて掘ってしまうと、隣の横穴墓を壊してしまうわけです。そのため、どこに掘るかというのは明確に調べ、現地で決めてから掘っていると思うので、そういう意味ではある程度墓域として明らかに分かるような形で営むと思います。

- (5) **掘られた順番はある程度分かるのか、また、1回葬った後のメンテナンスのような後々からの供養的なものがあるのか。**

○松崎氏

- ・ 人骨のDNA解析を行うと、横穴墓は基本的には伸展葬といった体を伸ばしたような形で埋葬されます。場合によっては横穴墓の調査に入ると、手前の人骨は真っすぐ埋葬されているのだけれども、奥の人骨は1か所にまとめられています。
- ・ 当時の人の埋葬観念がどうだったかというのは非常に難しいところがあるのですが、人骨の死というものを単純に呼吸しなくなったとか、あるいは意識がなくなったとかという段階では死とは認めていないのです。埋葬した後に、例えば埋葬した状態は肉体があるわけですが、肉体が完全に滅んで白骨化した段階で多分まとめるのですよね。それは、骨に対して1回だけではなくて、その後もまとめたり、あるいはその骨をまとめて改葬したりということをやっているのが横穴墓の創生から見て取れます。

- (6) **古墳や横穴墓を造る専門業者があったのか。**

○松崎氏

- ・ 横穴墓の形態や掘り方を見ていると、かなり雑なものも結構あるのです。そうすると、横穴墓は全てそういう専門的な集団によって造られたわけではなくて、やはり集団の中で墓づくりが一定の、例えば家族単位とか親族単位で行われていたと考え

## 第13回多摩川流域歴史セミナー開催報告 「古墳からみた多摩川流域の地域史」

2025年6月1日(日) 10:00~16:00

場所：午前部：鶴の木松山公園横穴墓、多摩川台古墳群 午後部：奥沢区民センター別館・WEB配信

参加者：午前：17名、午後：83名(会場13名、WEB70名)

主催：多摩川流域懇談会

たほうがいいのではないかと思います。

- ・ 石材はどこかで切り出してくるわけですから、そこにはそういう技術者は介在した可能性はあります。墓室を掘り込むとかくり抜くというのは自分たちでやっていたのではないかと思います。

(7) 畿内の石室は阿蘇山の石を遠くからわざわざ持ってきたとか、大きい石が山ほど積まれていることがあるが、関東の東京やこの辺は遠くから石を持ってくるという例はあるか。やはり近場から切り出している石室ばかりだろうか。

○松崎氏

- ・ 基本的には近いところの石を持ってくるのですけれども、例えば埼玉のほうに緑泥片岩というのがあります。長瀬辺りに産出する緑色の薄く剥がれる石ですが、あれは石材として多摩川流域に持ってきています。例えば川崎の第六天古墳というのがあって、その石棺に緑泥片岩を使っています。
- ・ 埴輪も、埼玉からそういった石材を運んできて作っています。さすがに石室石材はあまりこちらのほうまで持ってきてはいないのですけれども、石棺の石材とか、そういったものは埼玉のほうからも運ばれています。
- ・ このように、首長間のネットワークとか交流がやはりあったとしか考えられないわけなので、そこは重要なところではないかなと思います。

### 3.4 閉会挨拶

京浜河川事務所事業対策官の大野氏より閉会の挨拶をいただき、第13回多摩川流域歴史セミナーを閉会としました。

大野氏

<主な内容>

- ・ 今日午前部の現地視察から午後部のセミナーまで非常に活発なご質問、ご議論があり、松崎先生には全て回答していただきました。
- ・ 7月と9月にも多摩川流域セミナーを開催します。ぜひ、ご参加いただければと思います。



以上